

# 日本周辺国際魚類資源に関する試験研究

(予算区分 受託 研究期間 平成18年～)

担当：資源海洋科 上原陽平

## 【研究の背景とねらい】

カツオ・マグロ類など広い海域を回遊し国際的に利用される漁業資源については、近年、世界的な消費需要の高まりとともにその資源状態が懸念され、国際漁業管理機関によって様々な管理措置がとられています。日本周辺には多くのカツオ・マグロ類が来遊し様々な漁業が行われていますが、これら漁業資源の持続的利用のため水産研究・教育機構を中心に全国22道都府県が連携した科学的な調査\*により、対象魚種の資源評価を行っています。

本県では、近海で漁獲されるクロマグロとカツオの漁獲物の体長や体重測定調査の他、県内主要15市場におけるマグロ・カジキ類及び遠洋はえ縄漁業で混獲されるサメ類の水揚統計調査を実施しています。

\*国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業(H28-32)

## 【これまでに得られた成果】

(平成28年度の状況)

- 2016年のクロマグロの幼魚であるメジ銘柄の水揚量は115トンで、2009年以降の低い水準から9年ぶりに100トンを超え(図1)、9月は尾叉長40cm、11月は46cmサイズが漁獲の主体となりました(図2)。
- カツオは約1.2万尾の尾叉長を測定し、323尾について年齢や成熟度調査のための精密測定と頭部や生殖腺のサンプルを収集しました。

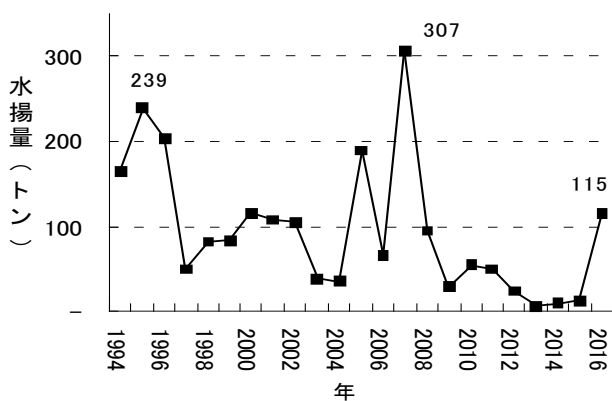


図1 県内のメジ銘柄の水揚量

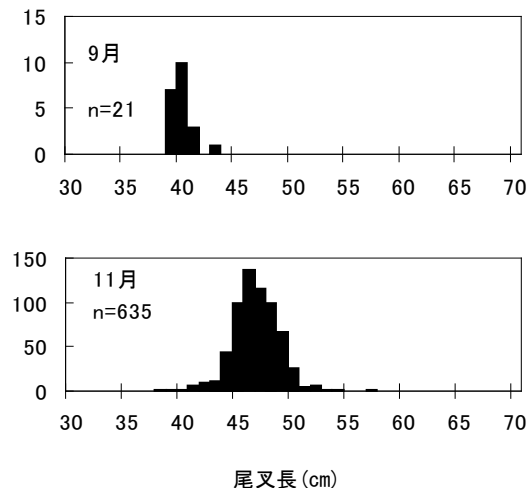


図2 メジ銘柄の尾叉長組成

## 【期待される効果】

- 毎年蓄積された漁業種別の漁獲量、努力量、漁獲物の体長及び年齢組成、成熟度等のデータは、水産研究・教育機構 国際水産資源研究所がとりまとめ、国際漁業管理機関によるカツオ・マグロ類の資源評価に活用します。また、日本の研究機関による信頼性の高い漁業データは諸外国との漁業交渉で日本の立場を主張する有力な裏付けとなり、国際漁業資源の適正管理に貢献できる他、関係漁業の経営安定に寄与します。

## 【今後の計画】

- 県内主要15市場におけるマグロ・カジキ類、サメ類の水揚状況調査とクロマグロとカツオの測定調査を継続します。

(作成 平成29年4月)